

ガンビア共和国

ガンビアは西アフリカに位置するアフリカ大陸最小の国である。人口は1,500,000人、首都はバンジュールです。公用語は英語だが、地元で使われている言語は、フラニ語、マンディンカ語、ウォロフ語、ジョラ語などがある。ろう者はガンビア手話を使う。

ガンビାରろう者難聴者協会(GADHOH)は1993年に設立された。国内に4つの支部があり、会員数は900人を超えています。統計によると、ガンビア国内には、53,000人はろう者か難聴者がいる。

手話通訳サービスはGADHOHによって運営されており、現在、正規雇用の通訳者は4名、通訳者実習生は3名。研修生プログラムはスポンサーあつてのものである。2011年GADHOHは初めて在宅実習及び評価を実施し、通訳サービスのレベルが一層向上した。現在、ガンビアには公式な通訳者協会はもちろん、手話通訳の公式(認定)養成コースもアセスメントもない。しかし、GADHOHをベースに国際手話通訳者や3年契約のイギリスからの通訳者による特別養成コースを受けることができた。

現在、行われている通訳の大半は、協会のスタッフのためのものであり、主に会議やGADHOHの活動での通訳を行っているが、医療機関や警察、家族会議などの通訳も時折行われる。

ガンビアのろう者は殆ど学校教育を受けていない。これは、家族にも社会にもろう者に対する理解が不足しているからである。ろう者を学校に入れても、どうせ勉強もできないのだから、金の無駄だと世間一般にそう思われている。ガンビアには障害者に対する政策などはもちろん、国連障害者権利条約も批准されていない。そのため、政府からの障害者支援という面で、ろう者には人権はない。更に、ガンビア国内の就職率は非常に低い。未就学ろう者はなおさらである。雇用されているろう者はたいてい新聞販売や電話スクラッチカードの販売など単純労働の仕事しかつくことが出来ない。例えば、新聞やテレフォンカ

ードの販売など。見習いから始めて、溶接工や大工、建築者、整備士などの職を得ているがとして働くことができる者はいるが、僅かなものにすぎない。

ろう学校が一枚ある。このセント・ジョン学校は、1983年に設立されたカトリックのミッションスクールで、聴覚障害児の教育を、中学3年まで行っている。この学校は、ガンビア国内唯一の都市である首都バンジュールの近くにある。地方の子どもは、バンジュールに家族がいなければ、なかなか通学できるような距離ではない。しかし、この学校の教師2名が、派遣教員として指導を受け、地方の村や部落などを廻って、聴覚障害の生徒や教員をサポートしている。

2009年9月、GADHOHのVSOボランティアが試験的な通訳プロジェクトを始めた。それは、聴覚障害を持つ学生のために、地元の大学で週に一日の通訳サービスをするというものである。彼女はその後、スポンサーを誘致し、翌年の1年間分の通訳1名の費用と職員対象の啓発研修をすることができるだけの支援を受けることができた。今後、大学側が自ら通訳費用を負担し、より多くの聴覚障害者が、より以上の学校教育を受けられるようになることを望む。